©1986 Eiko Terasaki

細倉を記録した寺崎英子のまなざし展

宮城県北西部、奥羽山脈の山麓の町鶯沢に
細倉鉱山という、鉛や亜鉛を産出した
日本で有数の鉱山がありました。
1941年、旧満州に生まれた寺崎英子は、
家族とともに細倉に移り住み、
家業の売店を生業にしてきました。
鉱山の閉山が発表されると、
寺崎はカメラを手にし、その後の細倉と
そこに暮らす人々の行方を撮影してきました。
このプロジェクトは、
2016年5月、75歳で亡くなった寺崎英子から託された、
約1万3千カットのネガをアーカイブし、
写真集刊行を目指すものです。
今回は、アーカイブ途上のモノクロネガから
約300点の写真を、撮影ノートなどの
資料とともにご紹介します。

2018年
5月27日(日)～8月31日(金)

細倉マインパーク・資料展示室２階
9:30～17:00(最終日15:00まで)　入場無料
＊火曜日定休・夏休み期間は休まず開園

主催・・・・寺崎英子写真集刊行委員会
協力・・・・せんだいメディアテーク

◉この企画は、せんだいメディアテークのメディアスタディーズで活動する「細倉を記録した寺崎英子の写真アーカイブ」(寺崎英子写真集刊行委員会)の成果をもとに開催しています。

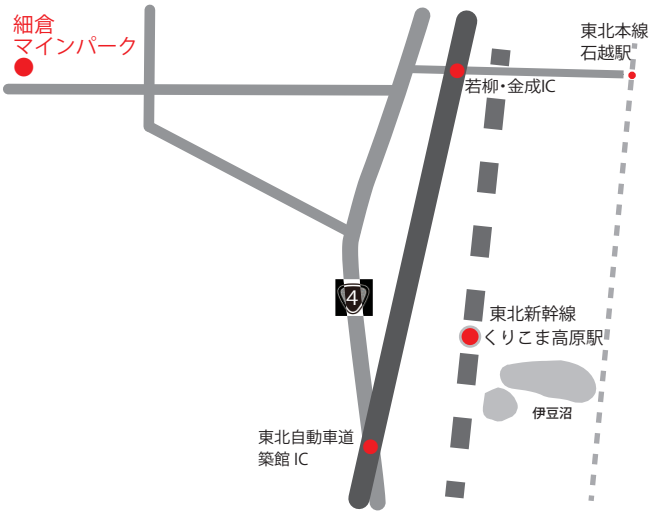
時代に翻弄され
閉山した鉱山の町、細倉
人々が去り
長屋が解体された後に
寺崎英子の眼は
植物へと向かって行く――

寺崎英子（てらさき えいこ）
1941年、旧満州生まれ。
終戦後、宮城県鶯沢町細倉（現在の栗原市）に家族とともに移住。
幼少期に脊髄カリエスを患い闘病後、家業の商店の経理で生計を担う。
細倉鉱山の閉山が発表された直後から鉱山の町に暮らす人々を撮り始め、
モノクロネガ246本、カラーネガ140本を残す。2016年5月急逝

◉寺崎英子写真集刊行委員会は、せんだいメディアテーク・メディアスタディーズのプロジェクトとして、寺崎英子が遺した写真のアーカイブを進めています。このプロジェクトをお手伝いいただけるボランティアを、随時募集しています。

問い合わせ先
koiw@jcom.home.ne.jp
090-8788-5474（小岩）

アクセス

東北自動車道 築館ICから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・車で30分
東北自動車道 若柳・金成ICから・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・車で30分
東北新幹線 くりこま高原駅から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 車で40分
東北本線石越駅から
くりはら田園線(バス)・・・・・・・・・・・・細倉マインパーク入口まで60分

仙台から・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・車で80分